

道徳学習指導案

1年〇組 男子 〇名 女子 〇名 計 〇名
授業者 担任 川尻 年輝

1) 主題名 「他国の人々や文化に親しむこと」(C-16 国際理解・国際親善)

2) 資料名 「ボア タアルデ」(H28 信州教育出版社「わたしたちのみち」1年 掲載予定教材)

3) 主題設定の理由

① ねらいとする価値について

変化の激しい現代において、グローバルな視点に立った物の見方や考え方を持つことが大切であり、国際化への対応として外国の人々や文化に対する理解と尊敬の念を持つことが大事だと考える。世界の国々には、その国独自の文化や伝統があり、各国民はそれに対して誇りを持って生活している。また、コミュニケーションの基本としてそれぞれの言語は違うが、どの国においてもあいさつがあり大事にしている。

いろいろな国のあいさつ言葉を知ること、世界の人々や文化に親しむことにつながる一歩になると考える。

② 児童の実態

学級構成の変化があまりない小谷の子にとって、近い将来クラスメートに言葉の違う外国にルーツのある子どもが一緒になった時に、戸惑ったり恥ずかしがったりして、自分から話しかけることはあまりできないのではないかと予想される。

また、ふだんのあいさつの仕方を見ていると、自分から元気な声で積極的にあいさつできる児童は少ない。より良い学級集団になるためにも、積極的にあいさつを行い外国にルーツのある子どもをはじめ多くの仲間と仲良くなってほしい。

③ 資料の価値

本資料は、言葉の違う外国にルーツのある子どもにはじめて出会った主人公が、その子どもの言葉であいさつをしたことがきっかけで仲良くなり、一緒にサッカーをして遊んだというストーリーである。

「こんにちは」や「ぼあたあるで」と、それぞれの国の言葉であいさつを交わした相手の子どもの反応の違いを考えることを通して、相手の立場にたったコミュニケーションの大切さに気づいていきたい。

4) ねらい

- ・あの子が、もじもじしながら「コンニチハ」といった場面とあの子がにっこりして「ボア タアルデ」と言って握手をした場面を役割演技させ、それぞれのあいさつの場面でのあの子の気持ちを考えることを通して、相手の立場にたったコミュニケーションの大切さに気づくことができる。

5) 人権教育の視点

- ・世界のいろいろな国の人と仲良くなる。

6) 本時の展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	指導上の留意点 ☆評価	時間
導入 (体験)	<p>1. 韓国語のあいさつを知る。</p> <p>英語の先生以外の、外国の人とあいさつをしたことがありますか。</p> <p>【発問1】 A-4経験を確認する①「経験の有無を確認する-1」</p>	<ul style="list-style-type: none"> え、なんて言っているの。 わかんない。 外国語かなあ。 1回あるよ。 一度もないよ。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が聞き慣れない言語として今回は韓国語を用いて挨拶を行う。 世界の国のあいさつをカードを使って紹介し、世界のあいさつのいくつかを知る。 教師が外国語であいさつし、その時どんな気持ちになったかを言わせる。 	5
展開 1	<p>外国の人に外国語であいさつされると、どんな気持ちでしたか。</p> <p>【発問2】 K-1感じたことを表現する ①「感じたことや印象を表現する」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ちょっとドキドキする。 恥ずかしいなあ。 言葉がわからないな。 嬉しい。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>韓国語をはじめとする、自分の知らない外国語であいさつされたとき、どんな気持ちだったのかが感じられたか。(表情・発言・つぶやき)</p> </div>	5
展開 2 (探求1)	<p>2. 「ボア タアルデ」の話聞く。</p> <p>「ボア タアルデ」というお話を勉強します。どんなお話なのか、聞きましょう。【発問3】 E-10情報や傾向を読み取る ②「情報を読み取る-2」</p>	<ul style="list-style-type: none"> どんなお話かなあ。 外国の話なのかな。 ドキドキするなあ。 お話に二人出てくるんだ。 「ボア タアルデ」って、日本語じゃなさそうだぞ。 あのこは、外国の子なのかなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ボア タアルデ」のお話を読み、概要をつかませる。「ぼく」と「あのこ」のイメージがつかめるように、イラストカードを黒板に貼る。 話の内容がつかめるように、模造紙に書いた本文を黒板に貼る。場面1まで提示し、以下の役割演技の後に模造紙を伸ばしていく。 場面をはっきりさせるため、模造紙の下にイラストを貼る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「ボア タアルデ」のお話の概要がつかめたか。(表情・発表)</p> </div>	5
展開 3	<p>3. “ぼく”と“あの子”になって役割演技を行う</p> <p>下を向いて、もじもじしながら「コンニチハ」っていったとき、あの子はどんな気持ちでしたか。</p> <p>【発問4】 E-12情報や傾向を読み取る ④「傾向を読み取る-2」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ぼくとあの子になって演技をするんだな。 あの子の気持ちを考えるんだな。 <p>(①の場面のあの子の気持ち)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語で話されたから何を言っているのかわからなかったけど、あいさつをしてくれたのかな。 日本語がよくわからないから、とってははずかしかった。 日本の子にあいさつされてドキドキした。 えーどうしよう。 何を話せばいいの。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面1・場面2・場面3で区切って提示する。 役割演技のやり方をモデルで提示し、子どもたちが何を行い考えるのか、はっきりと示す。 となりの子同士で二人組をつくる。役割を交代して演じ合った後、あの子の気持ちを伝え合う。 役割がわかるよう、あの子役の子どものイラストカードを用意する。場面1と場面2の色分けした2種類のカードを用意する。 一人になる子には、担任とペアになる。 場面1では、あの子がもじもじしている様子に十分着目させる。 	10
開	<p>い、あの子の気持ちを考える。</p> <p>①場面1(ぼくが日本語であいさつをした時)</p> <p>児童1(日本人ぼく役) →「こんにちは」</p> <p>児童2(あの子) →「コンニチハ」</p>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>役割演技を行い、「こんにちは」とあいさつされたときのあの子の気持ちを考えられたか。(発表)</p> </div>	

<p>3 (探求2)</p>	<p>(中心発問) あの子が、にっこりして「ボア タアルデ」と言って握手したのはなぜでしょうか。【発問5】 B-4 疑問を抱く②「原因・理由を追求する-1」</p>	
	<p>②場面2 (ぼくがポルトガル語であいさつをした時) 児童1 (日本人ぼく役) →「ぼあたあるで」 児童2 (あの子役) →「ボアタアルデ！」</p> <p>4. 終末場面の話を聞く。</p>	
<p>まとめ (発信)</p>	<p>5. 今日の学習の感想を発表する。</p> <p>今日の勉強で学んだことや感じたことなど発表しましょう。 【発問6】 k-2 感じたことを表現する ②「思ったことを表現する」</p>	<p>5</p>

2) 実証の観点

- ① 模造紙やイラストを用いた板書、ぼくとあの子の役割演技を行ったことは、あの子の気持ちを考えていくことにつながったか。
- ② 「あの子がにっこりして「ボア タアルデ」と言って握手したのはなぜでしょうか。」を中心発問に据えたことは、相手の立場にたったコミュニケーションの大切さに気づく上で有効であったか。

3) 板書計画

7) 教材研究

○ J S L (Japanese as a Second Language; 日本語を第2言語とする) とは

JSL は、「JSL カリキュラム」の略で、日常的な会話はある程度できるが、学習活動への参加が難しい外国につながる子ども達に対し、学習活動に日本語で参加するための力(学ぶ力)の育成を目指し、文部科学省で開発されたものである。つまり、「日本語で学ぶ力」を育成するための「教科学習用の支援ツール」である。

「体験・探求・発信」という授業構造に応じた各教科の教科志向型と教科を問わず見られる学習活動に慣れるためのトピック型とがある。

○ 【資料 AU】

AU は「Activity Unit」(活動の単位)の略で、教室(特に在籍学級)での様々な「活動→学び」を促す場面において、多用される教師の発問・指示語を体系化したものである。

* 文科省HP『学校教育におけるJSLカリキュラムの開発について』(最終報告) 小学校編

【本単元に関わる AU 一覧 (全体)】

共通のAU	本授業での表現例
<p>A-4 経験を確認する①「経験の有無を確認する-1」 T: ~したことがありますか。 S: はい、あります。(いつ/どこで) しました。 いいえ、ありません。</p>	<p>T: 英語の先生以外の、外国の人とあいさつをしたことがありますか。 S: はい、あります。/ いいえ、ありません。</p>
<p>K-1 感じたことを表現する①「感じたことや印象を表現する」 T: どう感じましたか。 S: ~と感じました。</p>	<p>T: 外国の人に外国語であいさつされると、どんな気持ちでしたか。 S: 恥ずかしかったです。/ ドキドキしました。</p>
<p>E-10 情報や傾向を読み取る②「情報を読み取る-2」 T: ここには、どんなことが書いてありますか。 S: ~ということが書いてあります。</p>	<p>T: 「ボア タアルデ」というお話を勉強します。どんなお話なのか、聞きましょう。 S: 「ボア タアルデ」って、日本語じゃなさそうだよ。/ あのこは、外国の子かなのかなあ。</p>
<p>E-12 情報や傾向を読み取る④「情報を読み取る-2」 T: ~から、どんなことが読み取れますか。 S: ~ということがわかります。</p>	<p>T: 下を向いて、もじもじしながら「コンニチハ」っていったとき、あの子はどんな気持ちでしたか。 S: 日本の子にあいさつされてドキドキした。/ えーどうしよう。</p>
<p>B-4 疑問を抱く②「原因・理由を追求する-1」 T: ~のは、なぜですか。/ でしょうか。 S: ~だからです。</p>	<p>T: あの子が、にっこりして「ボア タアルデ」と言って握手したのはなぜでしょうか。 S: 「こんにちは」は、よくわからなかったけど、「ぼあ たあるで」は、自分の国の言葉でわかってうれしかったから。</p>
<p>k-2 感じたことを表現する②「思ったことを表現する」 T: (~について) 思ったことを話してください。 S: ~は~ (だ) と思いました。</p>	<p>T: 今日の勉強で学んだことや感じたことなど発表しましょう。 S: 外国の子と同じクラスになったら、外国の子がわかるように話をして仲良くなりたい。</p>